

はな華



嬉しい再会がありました。約3か月前、グループホームへお手伝いに行った際のお話です。私が清華苑に入職した当初、最初に仕事を教えてくださった先輩職員と、8年ぶりに再会しました。入職1年目で多くの不安を抱えていた私に、先輩は「大丈夫。佐藤さんならできる」と優しく声をかけてくださいました。

「利用者」に常に寄り添い、第一に考える姿勢や、現場で使用する物品を整理整頓し、いつも清潔に保たれている姿は、今でも私にとって尊敬する存在です。

今回の再会では、再び先輩の隣で働けることがとても新鮮で、心が温かくなりました。そして、「大丈夫。佐藤さんなら出来る」と改めて声をかけていただいたことで、安心して業務に取り組むことができ、自分自身の初心を思い出す機会にもなりました。

場所は違えど、同じ法人で働いていることに変わりはありません。どれだけ年月が経っても、先輩の存在は私の心の支えであり続けています。

(介護員 佐藤まどか)



私の趣味の「御朱印集め」についてお話しします。御朱印というのは、神社やお寺で参拝した証としていただくもので、墨で文字を書いていたとき、朱色の印を押してもらいます。

簡単に言うと「大人のスタンプラリー」のようなものです。ただし、スタンプラリーと違うところは、必ず最初にきちんと参拝をしてからいただくという点です。



参拝するときは、「健康でいられますように」とか「今日もいい一日になりますように」など、いろいろお願いをすることが多いです。

神社やお寺の静かな雰囲気の中で手を合わせると、自然と気持ちも落ち着いて、少しリフレッシュできる時間にもなっています。でもふと考えると、私たちの仕事はお願いする側というよりも、「利用者の「今日も安心して過ごしたい」「穏やかに生活したい」という願いを支える仕事だな」と思いました。

忙しいとつい作業のようになってしまいうちもありませんが、「利用者一人一人にとっては大切な一日だと思います。」

今日も少し気持ちに余裕を持って、丁寧な声かけや関わりを意識していきたいと思っています。そして、できれば私自身の運氣も少し上がることを期待しながら、今日も一日頑張りたいと思っています。

(介護員 小林紗弥)

私の同期には、いつも優しく可愛い笑顔で周りを和ませてくれる人や、出勤して会うたびに「今日の目標は…」とその日の目標を宣言してくるAさん、そして「飯に行くときよく食べるBさんなど、個性豊かで面白いメンバーが揃っています。

今でこそ、仲が良い同期たちですが、入職したばかりの頃はあまり会話もなく、研修中もそれぞれで行動することが多く、「このメンバーで仲良くなる日が来るのかな。」と、とても心配でした。

しかし、一緒に働いていく中で少しずつ話す機会も増え、気付けば仕事の相談や、たわいのない話で盛り上がりやすくなるようになりました。今では、同期全員で「飯に行くくらい仲良くなり、あのころからは想像が出来ないと感じています。

仕事では大変なことや悩む事もありますが、同期に話すとき気が楽になる事も多く、改めて同期の存在の大きさを感じています。これからも互いに支え合いながらお仕事を頑張っていきたいと思っています。

(介護員 大谷利子)

編集後記

このたび、新たに「はな華」の編集担当となりました、シヨートステイ生活相談員の前田美帆です。

「利用者の日々の穏やかで笑顔あふれる」様子を、生き生きとお伝えできる広報誌にしていきたいと考えております。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

(生活相談員 前田美帆)



「伝わらなくても、届いている」

総施設長 池田昌弘

新年度は、「新しさ」を実感する季節。街では、真新しいスーツに身を包んだ新入社員
の姿がまぶしく映ります。ここ清華苑でも、今年は8名の新人職員を迎え、フレッシュな
空気とともに新しい一年が始まりました。

私がこの仕事を始めて間もない頃のことです。あるご利用者の方が、長年の趣味だった
民謡をとても大切にされていました。昔から地域の民謡グループで歌い続けてこられた
そうで、その方にとって民謡は単なる趣味を超え、生きがいそのものだったと伺っていま
した。

ある日、地域の民謡グループの方々がボランティアに来てくださいました。なじみの節
回しが流れた瞬間、そのご利用者の表情がぱっと輝き、体を揺らしながら一緒に声を合わ
せて歌われました。その笑顔は、今も鮮明に目に焼き付いています。

しかし翌日、「昨日の民謡、楽しかったですね」と声をかけると、そのご利用者はきょ
んとされたまま「そんなことがあったかね」とおっしゃいました。あれほど喜んで歌っ
ておられたのに、まるごと忘れておられる。私はその場でしばらく言葉を失いました。

その夜、布団の中でずっと考えました。覚えていないなら、あの時間に意味はなかった
のだろうか、と。行事を企画してくださった職員の努力も、ボランティアの方々の善意
も、すべて無駄だったのだろうか、暗い気持ちになかなか消えませんでした。

でも何日か経って、ふと気がつきました。あの瞬間、その方は確かに笑っていた。体が
揺れていた。声が出ていた。記憶には残らなくても、その喜びは本物だった。人は記憶だ
けで生きているのではなく、今この瞬間の感情によっても生きているのだと。そしてその
一瞬一瞬の積み重ねが、その方の毎日をつくっているのだと気づいたのです。

それ以来、私たち職員は「覚えてもらえないか」ではなく、「今、この瞬間を心地よ
く過ごしていただけるか」を大切にしています。小さな喜びの積み重ねが、その方の人生
を豊かにすると信じながら、これからも皆さんとともに歩んでいきたいと思っています。

地域のみなさまへ。今年度も至らぬ点はあるかもしれませんが、どうぞ変わらぬご支援
をよろしくお願い申し上げます。



2026.4.9~4.11 石ヶ谷公園や苑内でお花見を楽しみました



エピソードに掲載されているご利用者と写真に写られているご利用者は別の方で関係はありません。



エピソードに掲載されているご利用者と写真に写られているご利用者は別の方で関係はありません。



初めての相続登記

事務員 柿内征臣

令和6年4月1日に民法や不動産登記法等が改正され、不動産の相続登記が義務化されました。相続人は不動産の取得を知った日から3年以内に相続登記をしなければなりません。

また、複数の相続人による遺産分割協議を経て取得した場合は、遺産分割が成立した日から3年以内にその内容を踏まえた登記をしなければなりません。正当な理由なく登記を行わない場合は、10万円以下の過料の適用対象となります。私の父が亡くなり、母が施設にお世話になって、私の実家が空き家になりましたので、自分で遺産分割協議書を作成して、司法書士に依頼して、実家の名義を私にして登記しました。もちろん相続人の同意を得ています。

名義変更をしないと売却できません。2年以上経過しましたが、3年以内に相続登記できました。登記が完了して、1ヶ月が経過したところから、いろんな不動産業者からダイレクトメールが届くようになります。登記簿をチェックして、名義

変更をして間もない個人に売却・リフォーム・賃貸をしませんか？と手紙を出すのが一般的なようです。

経験上、なるべく多くの業者に来てもらって査定してもらって下さい。大手に依頼すると、同時に20社ぐらいに査定してもらえて条件の一番良い会社を紹介してくれる事もありました。「建物の価値は取り壊しにお金がかかる。」「家具・家電・生活用品の処分代がかかる。」「更地にして測量するのに費用がかかる。」などと言われて、その費用だけでも見積額にかなりの価格差がでます。

手間は掛かりましたが、自分で納得のいくまで査定していただいた結果、安いところと高いところの査定額には、私の実家で手取り500万円以上の差がありました。

不動産を相続するのは一生に一度あるかないかかもしれませんが、どなたかのお役に立てれば幸いです。

STAFF VOICE

スタッフボイス

特別養護老人ホーム 清華苑

介護、看護、相談、調理、事務、それぞれの部署で働くスタッフの生の声をご紹介します。



言葉が増えたその先に

介護員 杉浦深月

入職して5年目を迎え、日々の業務の中で少しずつ自分自身の成長を感じるようになりました。特に、ケース担当として関わらせていただいているご利用者との関係において、その変化を実感しています。

その方は普段あまり多くを語られるタイプでなく、関わり始めた当初はどのように接すればいいのか悩むことも多くありました。しかし、日々の声掛けや関わりを通していく中で、少しずつ言葉を返して下さるようになり、「これが欲しい」「あれが食べたい」といったご本人の想いを伝えてくださる場面が増えてきました。そのひとつひとつの言葉がとても嬉しく、関係が築けてきていることを実感しています。

また、他の職員やご利用者との関わりの中で、その方がどのようなことに楽しみを感じるのか、多くのヒントをいただいています。1人でできることには限りがありますが、周囲の力を借

りながら関わることで、新しい発見や気づきにつながっています。

日々の積み重ねで築かれていく信頼関係は簡単なものではありませんが、その分、小さな変化や気持ちを共有できたときの喜びはとても大きいものです。

これからもケース担当として、ご本人がその人らしく、日々の生活を少しでも楽しめるよう支援していきたいと思えます。そして、ご利用者の言葉だけでなく表情など、些細な変化にも目を向けることの大切さを改めて感じています。

初心を忘れず、お一人おひとりの思いに寄り添いながら関わり、その方にとって安心できる存在であり続けられるよう、丁寧なケアに努めてまいります。

また、ひとつひとつの関わりを大切にし、さらなる信頼関係の構築に努めてまいります。



華だよりブログ

特別養護老人ホーム 清華苑



二次元コードから特養のブログを
ご覧頂けます！日々更新しています★



2026.1.11 特養のお正月 お屠蘇祝い

職員手作りの門松や新年の飾りが、お正月を彩りました！2日には、着物を着た職員がお屠蘇をお配りし、お元気に新年を迎えられたことをお祝いました。ご利用者のあたたかな笑顔がとても素敵です！今年もご利用者の穏やかな生活を守り支えられるよう、職員一同尽力いたします。今年も何卒よろしく願っています。



2026.2.18 懐かしのひな人形

3月3日の「ひな祭り（桃の節句）」先掛けて、ひな人形の飾り付けを行いました！雛人形の起源は、平安時代の風習「流し雛」。人の形をした紙人形に災いや穢れを移して川に流すことで、身代わりに厄を引き受けてもらうという意味があったそうです。ご利用者に一目見て頂こうと、居室まで雛飾りを運びました！皆さん懐かしいひな人形に釘付け。



2026.2.20 三寒四温のお花見日和

特養清華苑の梅が少しずつ咲いてきました！寒さが少し和らいだ日に、久々に皆さんで中庭に散歩へ。苑の中でも飾ろうと思いい、数本の枝を持ち帰りました。K様は綺麗な梅を見て素敵なお顔を。清華苑のシンボルツリーでもある桜が咲くまでは後1カ月！！今年も新しい職員を迎える頃に満開の桜が咲きますように。



2026.3.12 介護×美容、髪と心を整える

当施設には、以前美容師として働いていた経験を持つ介護職員がいます。その経験を活かし、このたび施設内ヘアサロンを開店しました。カットを担当した職員は、「ご利用者の刺激になればいいな」と話しながら少し緊張した様子でハサミを握っていましたが、いざ始めると表情はまさにプロそのもの。職員からも「さすが美容師！」と感心の声が上がりました。



2026.3.23 楽しいはみんなで作るもの

ご利用者の皆様と貼り絵作りに取り組みました。色を塗った形を丁寧に切り取る方、色紙をちぎって模造紙に貼る方と、それぞれが役割を分担しながら作業を進めました。時間を忘れるほど夢中になられ、笑顔も多く見られ、穏やかで活気あるひとときとなりました。完成した作品は後日披露予定です。皆様に喜んでいただけますように。



2026.3.31 春はすぐそこに

ショートステイをご利用のT様。本日は建物の中に入る前に、車を降りて少しだけ寄り道をしました。咲き始めた桜を眺めながら、ゆったりとひと息。「やっぱり春はこうやって、花を見ながら散歩するのがいいね」そんな言葉とともに、やさしい笑顔を見せてくださいました。季節の移ろいを感じながら、心もふんわりとほぐれるひとときとなりました。



2026.4.3 色とりどりの春、咲きました

11月に植えたチューリップとビオラが見事に咲きました！毎日欠かさずお水をあげてくれたおかげで、こんなにきれいに育ちましたね。外に出ると春の匂いがふんわりとただよってきて、気持ちも明るくなります。桜ももう少しで満開です！これからますます春を感じられるのが楽しみです。



2026.4.12 ♡♡桜ミチ♡♡

この日はあいにくの雨模様。行き先は特に決めず、稲美町の方面へお花見ドライブへ出かけました。道中では「靴のヒラキやな」「田んぼの季節やな」など会話も弾み、車内は和やかな雰囲気になっていました。雨が止んでいって写真撮影をパシャリ。桜や菜の花が満開で、春を感じるひとときとなりました。次の外出も楽しみです！



2026.4.19 葉桜香る季節浴～桜の湯～

毎月恒例の季節浴。今月は「桜の湯」です。浴室に一歩足を踏み入ると、ふんわりと広がる桜のやさしい香り。思わず「ああ～いい香り」と、皆様の表情も自然とゆるみます。お花も、浴室に彩りを添えてきています。乳白色のお湯にゆったりと身をゆだねながら、香りと景色の両方で楽しむ「桜の湯」。皆様それぞれに、春の余韻を感じておられるご様子でした。



清華苑
入社式
2026.4.1

数ある仕事の中から「福祉」を、そして「三幸福社会」を選んだ。その決意と期待に満ちた思いに、私たち先輩職員もしっかりと応えていきたいと身が引き締まる思いです。
当日は満開の桜も、皆さんの晴れやかな門出を祝福しているかのように歩んでいきたいと思います！



長尾 銀太
【私の自慢】
●どこでも寝れます！

知りたいことの探求心が強いです！他人の好きなものから自分の知らないことまで色々知りたいと思ったことに一直線に突き進むからです。

餅井 百香
【私の自慢】
●陶芸

ご利用者が安心してできる介護を目指し、日々努力しています。一つ一つ丁寧に取り組むことを心がけています。

山邊 史織
【私の自慢】
●何事にも一生懸命

私は何事にもコツコツ努力することができます。目の前の事に真摯に取り組む、失敗を恐れず、成長し続けられる職員を目指します！

篠塚 杏優菜
【私の自慢】
●楽器演奏

フルートとピアノが得意で運動もでき、広島県の尾道で育ちました。中学2年のときに曾祖母の介護を経験し、介護の道を目指しました。精一杯頑張ります！

【特養に配属された4名の新入職員をご紹介】

Congratulations!!